

平成28年2月

# 小川修史 学位論文審査要旨

主査 汐田剛史  
副主査 渡邊達生  
同 領家和男

## 主論文

Involvement of glucocorticoid in induction of lingual T1R3 in rodents

(齧歯類の舌T1R3誘導におけるグルココルチコイドの関与)

(著者：小川修史、神吉けい太、本田耕太郎、友岡康弘、領家和男、渡邊達生)

平成27年 European Journal of Pharmacology 761巻 262頁～267頁

## 参考論文

### 1. 小児の口咽頭および咽頭部穿通性外傷の3例

(著者：奈良井節、小谷勇、土井理恵子、横木智、小川修史、谷尾俊輔、井東朗子、  
領家和男)

平成25年 口腔顎顔面外傷 12巻 44頁～48頁

## 審査結果の要旨

本研究は副腎摘出（ADX）ラットおよびマウス味蕾細胞を用いて、ストレスにより分泌されるグルココルチコイド（GC）の味覚受容体T1R3への影響を検討したものである。その結果、ADXラットで低下したT1R3 mRNA発現は、少ない濃度のGC投与（0.1 ng/kg）により sham-ADXラットで観察された発現量まで回復したが、大量のGC投与（10 ng/kg及び1000 ng/kg）ではその回復が逆に抑制された。味蕾細胞にGC受容体の存在が確認され、GCによる味蕾細胞のT1R3mRNAの発現抑制が示された。本論文の内容は、ストレスにより分泌されるGCが、T1R3の発現を抑制して味覚障害を起こす可能性を示すものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。